

## 道教大附属函館中が学校祭

### 生徒会主体の企画復活

#### うちわ制作や和菓子販売

【函館発】道教育大学附属函館中学校（中村吉秀校長）は17、18日の2日間、同校と函館市民会館で第53回学校祭「梧桐祭」を実施した。新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、全校生徒から募集したアイデアをもとに、うちわや和菓子販売などの企画を再

開。生徒会の主体的な活動が復活した。

ことしの学校祭テーマは「真華々咲き誇れ受け継がれし伝統を超えて」。本当の値打ちを意味する「真価」に、個々が持つ「真の力」を發揮してほしいという願いを込め、生徒会が考案した。華やかに咲き誇る



瀬棚小の児童と遊ぶ学生ら

た。

中学年の社会科の授業では児童と瀬棚港周辺を散策し、漂流物の調査に同行。高学年の児童と校地内の学級園・花壇などの整備を行った。

同校では学生と越前校長、鎌田瑞己教頭が教職について交流する場面も設けた。

学生らは教員を目指した

欲の高まりを感じられた時はうれしい。様々な人との出会いや学校を任せてもらっていることがやりがいを感じる」と回答。交流後は「教育大とのつながりを持ち、教育活動に協力いただけるのは学校として有意義な時間。大学生のキャリア教育、教員を目指す後継者育成の契機にもなれば」と期待を寄せた。

学校祭を目指したいとの思いから、真価の「価」を「華」に置き換えている。

和をコンセプトにした企画や発表が行われ、初日は校内でステージパフォーマンス等を実施。美術部の生徒が紙で制作した着物のファッションショーでは古風なものからモダンなデザインまで多様なデザインが並び、豊かな発想力を披露した。

生徒会活動では、コロナ禍以前に行われていたオリジナルうちわの製作と和菓子販売の2つの取組を復活。いずれもデザイン案は全校生徒から募集した。過去には美術の授業で和菓子のデザインを粘土で制作する経験があったそう。今回は学校祭のテーマをイメージした和菓子の絵と名前な

どを公募し「水まんじゅうの中に練り切りのバラを入れる」「寒天を土台で作る」などの多彩なアイデアが寄せられた。

うちわは3年生の太田陽さんと溝口凛さんの作品、和菓子は3年生の小林優唯さんと溝口凛さん、2年生の西村美咲さんの作品を採用。和菓子は市内の菓子店「お菓子処ひとつ風」の協力を得て製品化した。ようかん、求肥、練り切りで華やかに仕上げた3種類の菓子は「茶房 太陽軒」と名付けた教室で浴衣を着た生徒会の生徒が抹茶と共に振る舞った。

和菓子と抹茶を味わった3年生の永長菜乃さんは「生徒会の皆さんの装いがとてもかわいらしく、うれしい気持ちになった。抹茶は飲みやすく、和菓子もとてもおいしかった」と笑顔を見せた。

2日目は函館市民会館で音楽部の発表と合唱コンクールを実施。日頃の練習の成果を發揮した。



校内公募で考えたデザインの和菓子を抹茶と共に振る舞った